JEGニュースレター130号

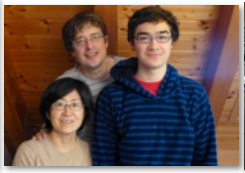
www.jegschweiz.com　２０１２年１２月２０日発行

小さな証

９月２３日、スイス教会で洗礼を受けた、異国に学ぶ若き音楽家の澤田恵さんが神様に出会うまでの証です。

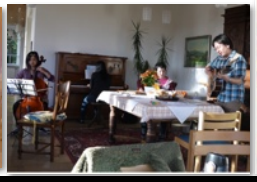
新入会者

スイスJEGに4人の新入会者が与えられました。神の家族に加わり、喜びと悲しみをともに分かち合います。



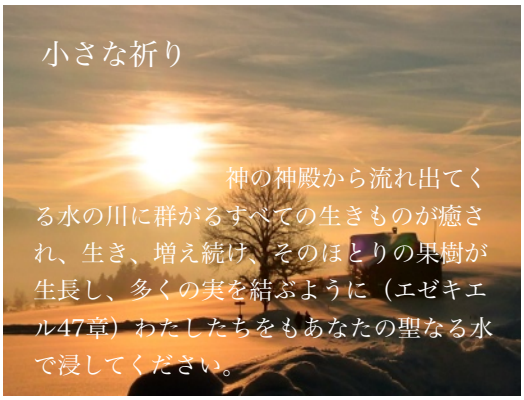
フランクフルト修養会

南独シュヴァルツヴァルドのVillingenで開催されたフランクフルト日本語教会の修養会にスイスから８名が参加しました。その証です。



ANRCレポート

もうひとつの「キリスト者の集い」”ヤマハリゾートつま恋”で開かれたカンファレンスANRCをレポートします。



私たちの救い主なる神のいつくしみと人への愛とが現れたとき、神は、私たちが行なった義のわざによってではなく、ご自分のあわれみのゆえに、聖霊による、新生と更新との洗いをもって私たちを救ってくださいました。テトス３：４－５

私たちの罪と咎の身代わりとなる為、粗末な馬小屋に人間というお姿で生まれて下さったイエス様。何ものにも代え難い尊いそのお誕生を心からお祝いし、今日もイエス様を心の居間にお迎えして、ともにこの一日を過ごせる幸いを感謝します。

私たちの救い主、イエスキリストのご降誕を心からお祝い申し上げます。スイス日本語福音キリスト教会

ちいさな証

全ては神様によるもの

澤田恵
スイス日本語福音キリスト教会会員

私は今年の９月２３日に皆さんに温かく見守られて洗礼を受けました。私が洗礼を受けたいと思い始めたのは今年の1月頃でした。

神様を知る以前の私は、とても素敵でとても理解のある両親と、とても仲の良い姉に沢山の素敵な友人、人々のいる環境を当たり前だと思い生活していました。私は転校を多く経験し、それでも凄く良い人々に出会い恵まれた環境にいましたが周りの人に対して関心が無かったり何にも誰にも感謝をせず、自分さえ良ければ良いと思っていました。日本にいて気が付かなかった事が、スイスへ留学し生活していく中で家族の大切さや人々の温かさに気が付きました。そして今では私の事を遠い日本から応援してくれている家族にいつも元気づけられています。

そして私に神様の事を知るきっかけをくれたのが、スイスに留学してから今日までずっと仲良くしてくれているとても大切な韓国人の友人二人の紹介で、チューリッヒにある韓国の方々の集まる教会に一緒に行った事です。ここでは全て韓国語の礼拝なので私は全く理解出来ませんでしたが、友達がいつもドイツ語で説明してくれていました。

教会に来る事自体私には始めから抵抗は無く、けれども最初は彼等と一緒に讃美歌の伴奏を弾いたり新しい人達と知り合える事がただ楽しいだけでした。いつの日か「なぜ皆さんはこんなにも幸せで楽しそうで素敵なのだろう」と思いました。するとそこに来ていた方がこのUsterの教会を紹介して下さり友人と伺ってみました。

日本語で初めて牧師さんや皆さんの話を聞き、「全ては神様によるものなのだ」と知り、私ももっと知りたいと思い始め、洗礼を決意しました。

洗礼準備のためウェンディさんと神様や聖書を学んでいる中で私の心に一番残っている聖書箇所が第一コリント１０：１３『あなたがたの会った試練はみな人の知らないようなものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを耐えることのできないような試練に会わせるようなことはなさいません。むしろ、耐えることのできるように、試練とともに脱出の道も備えてくださいます。』という言葉です。

私はこの言葉のお陰で今までの辛かった事や、これから起こる辛い事も全ては神様からの試練であり、それは私をより良くするための神様のご計画なのだと信じています。私は今まで生きてきてこの様な素敵な方々、環境に導いて下さった神様に感謝し続けて、神様が私にして下さっている様に私も周りの人々を大切に親切にしていきたいと思います。

1、１１月１１日のスイスJEGは、埼玉県行田カベナント教会牧師で、デボーション冊子みことばの光の編集長でもある矢吹博牧師をお迎えして礼拝をもちました。矢吹牧師は「神のわざが現れるため」をテーマにヨハネ9章1-12節から解き明かしされました。矢吹牧師は、フランクフルト教会の修養会で講師としてご奉仕をされて帰国の予定を、スイス教会の願いに応じて予定を変更してお越しいただきました。なお、矢吹牧師からスイス教会宛にメールが届いています。

昨年、フランクフルト日本語福音キリストの修養会に、スイスの教会から参加された脇山ご夫妻、原ご夫妻と初めてお会いいたしました。集合写真を自宅の壁に貼って時折お祈りしておりましたが、まさか今年もお目にかかれるとは思ってもみませんでした。

この度も、フランクフルトの教会の修養会にお招きいただき、さらにスイスの教会の日曜日の礼拝でメッセージをさせていただけるなどとはほんとうに驚きです。しかも、通訳してくださったルツ・クンツ先生のご主人は、今から３５年ほど前に私が聖書神学舎という神学校におりましたときに、週に一度ドイツ語を教えてくださったあのクンツ先生でした。

お子さんも、青年たちもともに集っている教会の交わりが、主イエスにある神の家族のようにいよいよ豊かなものとされていきますように、祈らせていただきます。

今回はあいにく、美しいスイスの山々を見ることはかないませんでしたが、もし主が次の機会を賜りましたならば、ぜひ見てみたいと思いました。けれども、山々を眺めること以上に、皆様とともに礼拝できましたことは何よりの神さまからの贈り物だと思っております。

心からの感謝を込めて

行田カベナント教会　矢吹博、育代

2、１１月２５日は、ウィーンから高木功一牧師ご家族をお迎えし礼拝を守りました。ご夫妻による”一羽のすずめ”（お嬢さんのピアノ伴奏）の賛美のあと、”落ち着き信頼する”をテーマにイザヤ書３０：１５–１９から解き明かされました。高木牧師ならびに矢吹牧師のドイツ語通訳の付いたメッセージは、スイスJEGのメッセージ録音サイトhttp://jeg.meielisalp.chからお聴き頂けますのでご利用下さい。

3、スイス教会に、１１月２５日、４人の兄姉の入会者が与えられました。９月２３日にスイス教会で洗礼を受けられた澤田恵姉、ご両親が宣教師で京都で生まれ育ったトムセン・ハンス兄、５人の母親でもあるトムセン千香子姉、長男のトムセン・チャーリー兄です。神の家族の一員として喜びも悲しみも共に分ち合い、福音の前進に心と力をあわせていきたいと願っています。

4、中村有志兄、マヌエラ姉に１１月１９日、２人目の元気なお子さんが授けられました。”希実（のえみ）”ちゃんと名付けられ、母子共お元気だそうです。おめでとうございます。両親と神様の愛を全身で受け健やかに育ちます様に！

5、スイス教会の姉妹教会であるフランクフルト日本語教会の修養会が１１月2日から4日まで、南独シュヴァルツヴァルドのVillingenにある静かで清楚な施設Freizeitheim　Tannenhoeheで開催されました。講師は昨年に続いて矢吹博先生で、"輝け家族、輝け教会"をテーマに使徒の働き16ー18章を中心に解き明かされました。スイス教会からも８人の兄姉が参加し、豊かに祝福されました。この秋の修養会の証がNLの５pから６pにかけて掲載されていますのでお読み下さい。

6、今年もクリスマス伝道礼拝が１２月９日（日）に、ミラノ賛美教会の内村伸之牧師をメッセンジャーとしてお迎えし、子どもも含め８０名の参加者とともに、救い主の誕生を祝うクリスマス礼拝を守る幸いを得ました。内村牧師は”キリストのうまれたところ”をテーマに教会が初めてという方にも分かりやすいメッセージを届けてくださいました。この日の説教はHPでも聴いて頂けるほか、スイス教会始まって以来初めてのティーン劇をふくめ礼拝の様子をビデオでもご覧頂けます。www.youtube.com/watch?v=2ANrCZF3v6c

7、スイス教会のHPがリニューアルしました。デザインの一新に加え、小さな証、ニュースレター、スイスJEGの歴史、ブルーリボンの祈りの会などを加え内容の充実を計りました。一度訪れてくださり改良点や感想などお知らせ下されば幸いです。　www.jegschweiz.com

8、「あわれみの器として主の召しに応答しよう」というテーマで開かれたANRC12　www.allnations.jp/anrc12/（11月22日～24日）が終了しました。欧州からも立山師、内村師夫妻をはじめ、福音宣教に重荷を持って歩んでおられる先生方、兄姉たちが参加しました。大会中には、現在欧州にいる方々と日本に帰っている方々が交わる同窓会、欧州にある日本語教会を覚えての祈り会も開かれ、会場のヤマハリゾート「つま恋」には、600名を超える方々（海外からも60数名参加）が集めらました。なお、７ページに永井敏雄実行委員からのレポートが掲載されていますのでお読み下さい。

9、今年３月北イタリア・ベルガモ近郊で開かれた　Slim Conference　www.slimconference.org/index.html　が、同会場で２０１３年も４月４日から７日まで「共同体の中で生きる：キリストの体である私」をテーマに開催されます。１２月１０日から申し込み受付が始まっていますので、参加を希望される兄姉はホームページから早めにお申し込みください。質問は：info@slimconference.org まで。

１０、オーニンガー宣教師、ラシェンコ・ベラ宣教師からのRundbrief 、工藤篤子メールマガジン１８９号、吉村美穂NL、井野葉由美メルマガ９３号、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語教会月報、ケルンボン教会月報、ルーマニア川井牧師の週報、イザール通信、夜越山祈りの家月報が届いています。お読みになりたい方は，松林までご一報下さい。

何一つ忘れる

大阪市は
岩佐智子姉から

わがたましいよ。主をほめたたえよ。主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。　詩篇103：2

尊い救い主の御名を賛美します。ここ大阪は秋の色が深まり、いよいよ冬到来の準備に入っています。皆様においてはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。今回は１０月にバーゼル（スイス）から大阪に帰国した後、ここ大阪で参加させて頂いている家庭集会の一部をご紹介させて頂きます。

福森兄姉宅にて月に一度、皆で御言葉を分かち合う家庭集会が持たれています。この家庭集会は既に一年以上も前から、おもにパリ日本人教会から大阪に帰国された方々が中心となって行われています。生活習慣の基盤がキリスト教であるヨーロッパと全く異なる日本でキリスト者として生活していく困難、それはヨーロッパから帰国した方々が最初にぶち当たる壁ではないでしょうか？

大阪市の福森宅で開かれる家庭集会にて

私も同じくこの壁を感じずにはいられませんでした。しかし、どんな困難な状況にあろうとも、私達の主なる神様はいつも私達に良くしてくださいます。私にとってこの大阪の家庭集会に導かれたこともまさしく神様からの恵みの一つです。

前回、１１月に開催された家庭集会において掲げられたテーマのうちの一つ、『人生において困難に遭遇したとき、私たちはどのようにあるべきか』この問いかけに対する答えの一つとして、冒頭の聖句“わがたましいよ。主をほめたたえよ。主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな”を聖書から学びました。

“何一つ忘れるな”、まさしく自分に直接投げかけられた言葉でした。そして改めて神様への賛美を思い起こさせられました。どんな時にも主を仰ぎ見て感謝すること、神様から頂いている溢れんばかりの恵みにはとるに足らないことですが、それでも良しとされる主は本当に尊い御方だと確信しました。

日々の神様との交わりの他、このように兄弟姉妹たちと御言葉を分かち合う事は私達の信仰生活にとってかけがえのない大切な時間であること、主の御名によって私達が一つに集えることは本当に素晴しいことだと改めて感じました。また、このように私達が一つに集えることは救い主なるイエス様の尊い血潮があったからこそ。それほどまでに私達を愛して下さる神様の栄光がどうかとこしえまで続きますように、アーメン。

古巣に戻った私

埼玉インターナショナルチャーチは
ラシェンコ・ベラ宣教師から

１１月３日、私は札幌での一年間の働きを終えて東京に戻りました。札幌にあるOMF語学センターにおける経験はとても価値あるものでした。私は学長アドヴァイザーとして様々な大切な仕事、学習プランを立てたり、毎週日本文化についてプログラムを作ったり、講師や学生を個別にサポートする仕事をしました。札幌を去ることは、私にとって決して易しいことではありませんでした。なぜなら、そこで良き関係を築き上げた友人や学生や講師への別れを意味することですから。

関東地区のOMFスタッフとともに

そして、今私は古巣の埼玉インターナショナルチャーチに戻ってきました。ここでは、チームリーダーの事務的な補助、祈祷会の準備、毎週英語による礼拝を行うほか、月に一度は日本人の兄姉と礼拝を捧げるとともに家庭集会にも参加しています。私にとって一番の願いは、主に従おうとする人々に付き添うことです。

スイスの皆様が私をお祈りの中に覚え、励ましてくださっていることに心より感謝しています。これからも、主の助けが必要な私が強められ主の栄光を現すための働きが続けられるようお祈り下されば嬉しく思います。

広島と繋がって

福島市は阿部恩姉から

福島のことをスイスの方々が心にとめてくださっていること、感謝いたします。教会での事業を通して、一般の方が教会につながるようになったらいいな、と思っています。

福島も海での漁も少しずつ種類を増やし、出荷できるようになっているようですので、自然の力（無論、主の配慮）に感謝です。以前山下俊一先生が、日本は雨が多いから、計算上の半減期より早めに数値は下がっていく、とおっしゃっていたのを思い出します。これも主に感謝です。

福島・磐梯吾妻の紅葉

先日、初めて広島に行ってきました。原発事故の後、私の勤務先の福島医大との提携をすることになるようで、その打合せのためです。原発事故がなければつながることもなかったであろう、つながりです。戦争という、今のわたしたちよりもっと理不尽な状態にあった広島が、その過去を残しつつ、しっかりと再生していることが印象的でした。

私の教会では、今年はこぢんまりとクリスマスを祝います。クリスマス礼拝、祝会、燭火礼拝を一日にまとめてするようです。　あとはゆっくりと家族で過ごします。どうぞ来年も主からの豊かな祝福が、皆様の上にありますように。

神様の備え

宮城県はオアシスチャペル利府教会の菊地 祥彦神学生から

11月に静岡県で開催された「All Nations Returnees Conference 2012」という大会に参加してきました。帰国者クリスチャン（海外で信仰をもって、その後日本に帰国したクリスチャン）が集まるこの大会には、全国から600名ほどの人々が集まりました。僕もドイツに留学していた時代、JEGに導かれ、そこで信仰をもったので、帰国者クリスチャンの１人です。大会では、留学時代に出会った人たちとも再会でき、とても恵まれた時を過ごすことができました。

僕はこの大会で、改めて海外の日本語教会の重要性を知りました。あるデータによると、「日本人が海外で救われる確率は日本国内の約30倍」だそうです。海外という新しい世界での生活は、キリスト教という新しい価値観を受け入れ易くするのでしょう。大会では、海外で信仰をもったクリスチャンの方々の証しをたくさん聞くことができました。

ANRC 12

大会に参加しながら、僕はドイツに留学していたときのことを思い出しました。そして、留学中に信仰に導かれたことを神様に感謝しました。僕は2009年の春から留学をはじめ、丁度同じ時期に留学した2人の日本人クリスチャンと出会うことができました。その2人に誘われ、JEGに通うようになり、ある日のJEGの礼拝後に信仰告白をしました。僕が信仰に導かれる上で、クリスチャンの友人、そしてJEGという２つの重要なピースを神様は備えてくださいました。本当に感謝です。

海友支援隊のみなさんと

さて、今年はJEGメンバーの方と仙台でお会いすることができました。松林兄とハイディ姉、本園姉と再会し、近況を分かち合ったり、JEGの様子を聞いたり、ある時は被災地を一緒に回ったりもしました。久しぶりの再会で、とても嬉しかったです。震災後も、JEGのみなさんには本当にお世話になりました。お祈りと尊い献金で、支えてくださることを心から感謝いたします。

もうすぐ2012年が終わりますね。今年は、僕は色々なことにトライしました。韓国で行われた約900人が集まった大会でのスピーチ、母教会（オアシスチャペル）での礼拝メッセージ、若者たちのスモールグループのリーダーなどなど…。また去年と同様、神学生としての勉強の他に、教会や被災地支援の奉仕、教会学校でのメッセージなども継続して行っています。正直、挫けそうになることもたくさんありますが、いろんな人に助けられながら頑張っています。みなさんにとっては、2012年はどんな年だったでしょうか。

2013年も、JEGに多くの日本人が集い、イエス様と出会う人が起こされることをお祈りしています。みなさんの上に神様から豊かな祝福がありますように。

「馬来西亞より」

マレーシアはトレンガヌ州の加藤雅也兄、智美姉から

スイス日本語福音キリスト教会の皆様へ
クリスマスおめでとうございます。マレーシアで最もイスラム教色の強いトレンガヌ州で元気にしています。

先日、1753年にオランダ人によって建てられたマラッカのクライストチャーチの前で撮影した写真を添付します。

マレーシアでは法律でキリスト教のことをイスラム教徒に話すことが禁止されているので、相変わらず祈るだけの日々です。こちらでは、無牧のバプテスト教会で礼拝を守っています。そしてベテランの信徒が交代でメッセージをしています。礼拝はこちらが休みの金曜日にあります。

秋の修養会に参加して

フランクフルト日本語教会は中村眷二兄から

主イエスを信じなさい。
そうすればあなたもあなたの家族も救われます。使徒の働き16:31

使徒パウロの第二回伝道旅行のピリピ、テサロニケ、アテネ、コリントと今のギリシャでの伝道旅行中の波乱に満ちた出来事が次々と起こりますが、主が導き、共にいてくださっていることを改めて深く教えられました。 パウロやシラスなどの主に用いられた働きで、今のトルコやバルカン半島、イタリアに福音が根付き、多くの家庭に福音が伝わっていった背後に働いておられる主の計り知れないご計画に、心から賛美いたしました。

特に、ピリピ伝道での出来事は強く心に残りました。パウロもシラスも伝道のゆえ投獄されますが、地震が起き監獄の扉が全て開いてしまいました。それで自害しようとした看守をパウロは思いとどめ

ました。看守はひれ伏して"先生、救われる為には何をしなければいけませんか？“と質問を投げかけます。囚人にたいして"先生”と呼びかけている様子に看守の心に大きな変化があった事を明らかに読み取ることが出来ます。

これに対し、パウロとシラスは"主イエスを信じなさい、そうすればあなたもあなたの家族も救われます。“と答えています。“その後、直ぐに彼とその家族の者全部がバプテスマを受けた。”と記されています。救いの為には何か行動するのでなく、主イエスを信じることにあることをはっきりと教えられたましたし、それに、私個人1人の救いにとどまらず、家族の救いにも道が開けていく恵みがあることを教えられ、家族、親族の為にも祈り続けていこうと心に大きく語りかけていただいた修養会でした。

スイスからもたくさんの兄姉がご参加くださり楽しい交わりが出来たことも感謝でした。来年［2013年］の秋の修養会にも是非矢吹先生にお願いできるように祈ってゆきたいと思います。

臨場感溢れる解き明かし

フランクフルト日本語教会は藤原誠兄から

まず、この修養会のために、見えるところ見えないところで多くの時間を割いて祈りつつ準備して下さった一人ひとりに心から感謝したい。自分はただで恵みを受けた者であることを思わされる。

今回のメッセージは使徒の働きの16-18章からであった。これまで僕が聞いてきた使徒の働きからのメッセージは「聖霊について」とか「パウロの生涯」のようなどこか神学的なものであることが多かった気がするが、今回の矢吹博先生のメッセージは神様をすぐ近くに感じるような臨場感溢れるものであり、解き明かしの一つ一つに感動を覚えた。

聖書の裏側にある、神様が用意しておられるシナリオの一部を見させてもらったような気がした。僕はそれらをまだ十分に消化できておらず今は言葉にすることができないが、イエス・キリストを求めて生きていくことへの希望とそのための大きな励ましを受けたことは間違いない。

また、今回の修養会でフランクフルトの教会の方々やスイスの教会の方々とたくさん信仰の話ができたのは僕にとって貴重であり、嬉しいことだった。現実と真摯に向き合いつつも、一方ではっきりとイエス・キリストを証して歩んでいくために、信仰の友との正直な分かち合いから受ける刺激や励ましは大きい。

また、信仰の話だけでなく、世代や境遇の違うさまざまな人達から、仕事の話、結婚の話、海外生活の話、子育ての話などを聞かせてもらい、自分の将来についても色々な角度から考えさせられた。与えられたこの出会いに感謝しつつ、神様の導きに期待しながらこれからも共に歩ませてもらいたいと思う。同じ主を見上げて。

フランクフルト修養会で得た恵み

スイス日本語教会は原しのぶ姉から

夫の会社の新しい同僚のYさんが嬉しいことにこの修養会に思いがけず参加してくださり、到着した朝の7時からすぐにYさんと夫と3人で聖書を読み、分かち合いができたことはわたしには大きな喜びでした。この修養会の参加者はスイスのわたしたちの教会から計8人の愛する兄弟姉妹、フランクフルトの新しい顔ぶれの方々や顔なじみの方々、そして懐かしい田辺先生ご夫妻。

そしてわたしが21年間購読している「みことばの光」の編集長である、矢吹博先生が説教者として立てられていたので、去年の修養会から一年ぶりにご夫妻と再会することができました。矢吹先生は「使徒の働き」から豊穣に語ってくださり、わたしたちはみことばに浸りました。

また、新しく知り合ったフランクフルトの兄弟姉妹のギターやチェロ、姉妹のリコーダーとわたしのピアノとで賛美することができました。私の教会音楽長からこの町Villingenに有名なオルガンがあるので、そこまでいくなら弾いておいで、といわれていたのですが、土曜日の自由時間にもこんなふうに兄弟姉妹と共に過ごせたのはよかったと思っています。

人々との触れ合いは私自身をほんとうに豊かにしてくれます。彼らのちょっとした仕草やふいに放たれる言葉のニュアンスから、また、さりげなくわたしを軌道修正してくださる言葉から、そのまなざしから、また共に食事する交わりから、主の道について多くを学びます。

その一週間後にあった、我が家でのメアスブルグ家庭集会にも矢吹先生ご夫妻、また賛美を共にしたフランクフルトの兄弟姉妹も4人遠くから参加してくださり、主にある楽しい時間を過ごすことができました。

また、みなさまと再会するのを楽しみにしています！

「つま恋」に集められた仲間たち
「あわれみの器として主の召しに応答する生き方」

実行委員　永井敏夫

この紙面では、二つの声を紹介したいと思います。

（1）　恵み：まず初日（22日）のギャザリング・セレブレイションでは、日本各地の歩みが紹介されました。世界のさまざまな場所から日本に帰国した人たちが、どういうことを考え、受け止め、祈っているかという声に耳を傾けたいと思います。

＊集える恵み：帰国し、友達を探したかった時にフェイスブックで届いた花見の集いに行ったことがきっかけだったこと。2010年の大会で同室だった三人でスタートし、三ヶ月に一回集まり励ましあってきたこと。集いで励まされ、自分のいる所に戻っていく歩みを継続していること。震災後、東北に行き活動している仲間を応援し、祈ってきたこと。リターニーが地元に来る際に、仲間に呼びかけみんなで集まっていること。

＊今のチャレンジ：互いに集まる際の距離が遠く、使命と重荷を持っていないと大変なこと。帰国者を迎えつつ、地元のクリスチャンとの交わり、クリスチャンとして地域でできること(老人ホーム訪問など）をし、もう一歩先に何かできないかと考えていること。思いを確認しあって共に歩んでいく仲間がなかなかいないこと。

＊これから：関西以南の地域でも集いがスタートするように。地域にある教会の祝福となるように。海外に行く際、その地の日本語教会の礼拝に出るように。全員が召されている、ひとひとりが任されているという自覚をもって歩めるように。

（2）「つながり」：23日(金）の朝は9種のセミナーがありました。私は三橋恵理哉師（札幌キリスト福音館牧師）と「ANRCのムーブメントを教会にどうつなげるか？」というセッションを担当しました。ここには教職者を中心に、100名あまりの方が参加されました。三橋師は、「つながり」について話してくださり、「今までの接し方は教えが中心であり、プログラム、組織が前面にあった。海外にいた人々は、教えやプログラムより、人に助けられた経験の中で、イエスさまに出会う例が少なくない。共に主を信じて歩む仲間とつながり、人に関わりながら、オリジナルのイエスさまに、イエスさまが伝えた神の国に入っていく。これが本来のイエスさまのスタイルではなかったか？」と話されました。

続いてグループごとに分かち合い、祈り合いました。どのグループも熱心に互いのことばに耳を傾け、身を乗り出して語っていて、会場は声と熱気で満ち溢れていました。自分の思いを受け取ってくれるところ、戻れるところ、ほっとできるところ、自分がいていいと思えるところ、つながれる場所が、世界でも日本でも求められています。こういう場を提供し、人々を迎え入れる人の存在も求められています。「日本の牧師に海外の教会での奉仕の機会を。」「海外の教会と姉妹教会関係を。」という声もあがりました。このような具体的な事例がますます増えていきますようにと心から祈ります。

あわれみの器

今回メッセンジャーとして立てられた内村伸之師、中野雄一郎師、マイケル・オー師、佐藤彰師、米内宏明師は、「あわれみの器として応答する歩みをして欲しい」という神さまからの願いを私たちに伝えてくださいました。

私たちはそれをしっかり受け取り歩んでいく責任があります。仲間たちが共に集まり、分かち合い、つながり、励まされていくことを大切にしつつ、「あわれみの器」としてこれからどのような姿勢で歩んで行くのか、私に託されている使命は何なのかと主に問いかけながら、それぞれが応答していくことが求められています。

あなたへの使命

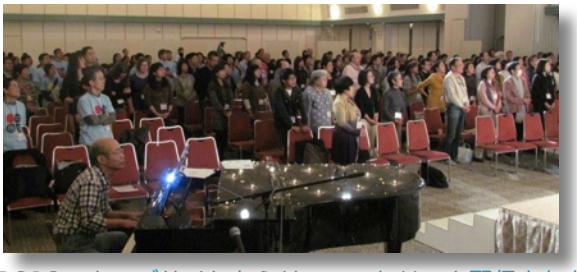
11月24日(土）　朝の全体集会は「被災地に生きる方々」に焦点が置かれたものになりました。佐藤彰師から「一緒に泣くために来られた主が、ありえないストーリーの中で、本当に共にいてくださる」ことへの深い感謝の思いが語られました。「あわれみの器として私の召しに応答してほしい。それがあなたに託し、そしてあなたに届けて欲しいあなたへの使命なのだよ。」という神さまの語りかけのような気がしました。

土曜日の夜は、ヨーロッパのみなさまにもおなじみの工藤篤子さんがコンサートを導いてくださいました。「今、私が立っているところから明日への道が始まる。」「同じようになれないけれど同じところに立つ。」ということばに私は心がとまりました。ボンフェッファーの作詞した「良き力に守られ」を何度も賛美しました。特に繰り返しの箇所のことばが会場を包み込みました。「良き力に守られつつ、来るべき時を待とう。夜も朝もいつも神は我らと共にいます。」

ふたつのこと

私たちは二つの「つ」をしていく。主に「つかえていく」、そして主に「ついていく」。ANRCに参加する、関係するひとりひとりが、互いに励ましあいながらこの二つを大切にして歩んでいけますように。

ANRCのCには二つの意味があります。今回のANRCのCは、conference(カンファレンス）という意味でした。これからのANRCはCすなわちconnection(コネクション）として進んでいきます。そして主の時(数年後？）にきっとカンファレンスが開かれることでしょう。これからも期待しお祈りください。



ANRC12のウェブサイトからはユーストリーム配信された全体集会の様子を見ることができます。http://www.ustream.tv/channel/anrc-2012